

2023 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 浅川 瑠一

〈 研修概要 〉

2024 年 2 月 25 日から 3 月 7 日までの 12 日間ベトナムでの海外研修に参加しチョーライ病院では臨床実習、フエ医科薬科大学では交流プログラムを経験しました。

〈 研修参加の目的 〉

私は自身の長所であるコミュニケーション力が海外でも通用するか挑戦するために本研修に参加しました。また、ベトナム文化に触れ、日本との違いや繋がりを自分の目で見たいと思いました。本研修では、ベトナムの方々との交流によってコミュニケーション力をさらに高めること、および実践的な臨床実習から多くの経験や知識を得ることを目標にしました。

〈 研修で学んだこと 〉

今回の研修で得た 4 つの力について報告します。

1 つ目は積極性です。ベトナムは交通事故が多く、画像診断部門は緊急の外傷患者（約 250 名/日）で常に忙しい状況でした。これは、私が調べた限りでは日本の約 6 倍です。その中でも検査の合間に可能な限り質問し、ベトナムの医療や患者対応に関する知識を得ることができました。さらに、ベトナムの学生が臨床実習の段階で既に診療放射線技師と遜色なく働いていること、患者数が多く早さを重視するために患者 1 人あたりの検査時間が日本よりも短いことなどを知りました。積極的に質問したことで有意義な研修にできました。

今後も意識して積極的行動し、学びの機会を逃さないようにしたいです。多忙な中にも関わらず、たくさんの質問に答えてくださった技師の皆さんに深く感謝いたします。

2 つ目はコミュニケーション力です。チョーライ病院の研修では私の拙い英語の質問に答えていただいたにもかかわらず、相手の英語が聞き取れず、理解に時間がかかり申し訳なく感じていました。また、フエ医科薬科大学の学生との交流では互いに英語が得意ではないためにコミュニケーションが難しかったです。英語に自信がなく、自身の



▲ チョーライ病院での研修の様子



▲ フエ大学の方々との交流

長所であるコミュニケーション力が活かせずにはいました。しかし、相手の目や仕草をしっかりと見て、ジェスチャーを活用するなど私自身の体を用いたコミュニケーションを試みたところ、相手の意図を汲み取り、自分の考えを伝えることができました。言語に関係なく、非言語コミュニケーションの重要性に気づきました。英語を話すときだけではなく、日常での円滑なコミュニケーションのためにも、自信を持つ大切さを学びました。

3 つ目は調べる力です。街を散策するにも、ルートや交通手段を調べて準備する必要があります。会話でわからない英単語や、伝わらない英語をベトナム語に翻訳する機会がたくさんあり、わからないことを自分自身で調べる習慣が身に付きました。自ら調べることの楽しさや大切さを体感し、人に教えてもらうよりも自分自身で調べた方が知識として身に付きやすいことに気づきました。

4 つ目は適応力です。ベトナムでは非常に多くのバイクが並走しており、いつ衝突してもおかしくない状況でした。初日は赤信号でも止まらない車やバイクを前に、私達だけでは道路を横断できませんでした。しかし最終日には学友全員が車やバイクの間を縫って横断する姿を見て適応力の凄さを体感しました。また、当初はベトナム料理に使われる香草の匂いがきつく、食事に手を付けられませんでした。しかし日々少しずつ口にするうちに、多少の香草は気にせずに食べられるようになりました。他にも、ベトナム訛りの英語、値引き交渉、ゼロが円よりも二桁多いドンでの支払いなど様々なことに慣れ、どのような環境でも生活できる自信ができました。



▲ チョーライ病院の方々との交流



▲ ベトナムの街の様子

〈 まとめ 〉

最初は英会話が難しく思うようにコミュニケーションがとれませんでした。日増しに相手の伝えたいことがわかるようになりました。英語への慣れに加え、相手の意図を汲み取ろうとする意識が自信を成長させたのだと思います。何事にもまず自信を持ち、積極的に行動することが一番大切だと知りました。さらに、たくさんのベトナムの人々との関わりで最も印象に残ったことは、誰もが親切だったということです。ベトナムの皆さんが来日された際は、今回いただいた優しさ以上のおもてなしをしたいと思います。

〈 謝辞 〉

ベトナムでの安全を確保し、私たちが日本まで無事に帰れるよう引率してくださった松尾先生、水田先生、霜村先生、石田先生に感謝申し上げます。また、研修を楽しく、より濃いものにしてくれた学友達にも感謝します。そして、私たちに終始親切にしてくださり、ベトナムでの最高の思い出を作ってくださったチョーライ病院の皆様、およびフエ医科薬科大学の皆様、本当にありがとうございました。